

そして新制三国丘高校が誕生した

「最初に教室に入っていた時のことは今もはっきりと覚えています。(中略)男生徒が先に入っていて閉めきった異常なまでの静かな教室に女生徒は入ることができず廊下の隅にかたまっていました。いつまでもこのままではどうしようもないので一人が勇を奮ってドアを開けました。中の男子生徒は一番後ろの隅にみんなかたまっていて固唾を飲んで一斉にドアを注目していたのです。その視線を感じながら、女生徒はオズオズと入って、一番離れた隅に不安でおびえるようにかたまっていたものでした。(高4回・小澤治子さん「三丘百年」から)」

1948年9月1日。男女共学がスタートした瞬間の緊張感が伝わってくるようだ。先生達も並々ならぬ緊張感とともに堺市立高女・府高女からやってきた。
「ミシン・アイロン・なべ」などの家庭道具のような教材備品を、トラックに満載しまして、女生徒の方々と共に、家庭科の看板をたてて、転動してまいりました。(85年発行「三丘九拾年誌」から。堺市立高女から転動してきた家庭科・津村千津子教諭)

授業のたびに、旧体育館の片隅までミシンの頭を、倉庫から運びました。(津村千津子教諭)



府高女や市高女の制服が混在している(高3回卒業アルバムから)

難航した三校交流

新制高等学校はこの年4月に発足。多くの高校は5月初旬までには男女共学の高校としてスタートを切ったが、母校は9月にずれこんだ。母校の場合は「三校交流」、すなわち堺中学校・府立堺高等学校・堺市立高等学校の三校の共学化であったが、調整作業が難航した。その背

校舎内外は荒れ果てていた。生徒も時流に影響されてか、あるいは三校交流の余波なのか、手のつけようもないほどの粗暴さ... (1948年に赴任してきた福島勝校長(肖像画)。後にこの時を振り返って)



景には学力差、当時の堺中が「三丘砂漠」と言われるくらい荒れていたこと、府立堺高女の校舎が戦災で焼けてしまっていたことなどさまざま要因があったといわれる。会合は数十回におよび、結局堺市立高女は廃校になるといつかたちでやっとまとまった。この年8月20日、堺市立高女の閉校式が行われ、2学期から共学の三国丘高校・泉陽高校が誕生する。

「堺高校」にならなかった

校名も8月まで決まらなかった。堺中学校だから当然「堺高校」と期待する声が多かったが、共学で生まれた2校とも「堺」にこだわったため、結局両校とも「堺」は使わなかった。結局両校とも「泉陽高校」となった。府下の旧制中学で新制高校になった際に名前が変わったのは母校だけである(茨木高校は当初「三島野高校」と称していたが、後、「旧制中学時代の「茨木」に戻った」。

校内新聞は「堺中新聞」に続いて昭和24年でも「堺高新聞」の名で発行されていたが、昭和25年10月、やっと「三国丘高新聞」第1号が出ることとなった。

新制中学校発足(47年)、新制高等学校発足(48年)、そして旧制中学校廃止(50年)に伴い、高1回(高4回は複雑な過程を経て卒業することになる。中でも併設中学校を経た高3回・高4回が最も複雑だった。(詳しくは次ページの図参照))

果敢に飛び込んだ女子

三校交流が行われたのは1948年9月当時の高校1〜3年と併

校内新聞にみる男女共学

共学前から、共学をめぐる話題は頻りに登場。座談会やアンケートも何度も行われていた。男女共学について否定的な意見も当初はあったが、1年後にはおおむね肯定的となり、定着していく様子もうかがえる。一部を抜粋。

設中学3年。ただし「全面的男女共学」が行われたのは高校1年と併設中3年で、高校2年・3年は「自由」だったので、その様相はかなり異なる。

高1回(交流当時高3)では卒業生のうち男子108人に対して女子はわずか14人。高2回(同高2)でも男子276人に対して女子は109人。また、履修科目の違いによる学力差(特に英語・数学)が大きく、共学と比べて一部の希望者を除いて女子だけでクラスを編成、特訓が行われたという。

高3回(交流当時高1)、高4回(同併設中3年)ではむしろ女子の生徒数が多くなる。事前的補習の効果もあってか学力差もほぼなくなった。この年12月の1年3組の学級日誌には「組の成績で一・三・九番は夫々女子だそうだが、男も女に負けないよう頑張らなければならない(12月4日・男子)」と記されている。

高1回の山川智恵子さんは卒業式で努力賞を与えられ「急激な男女共学は、既修学科の相違のため多大の懸念をもたれたのでありますが、あなたは本校最上級の共学組に敢然として入り、爾来予想された非常な困難を排除しつつ熱心に勉学に精励し克く優秀の成績をおさめられました。あなたのこの容易ならざる努力は、以て女生徒の範とするに足ると考えられます」と讃えられた(「三丘百年」から)。

制服・校章・校歌の誕生

何もかもが新しく始まった時期であった。女子の制服は48年中には決まっ

最古の学級日誌

学級日誌も堺中時代にはなかったもの。現存する最古のものは、交流当時の1年3組(村上ホーム)の学級日誌。昭和23年11月19日~翌年3月8日までクラス全員が順番に記した。

「カンシャク玉とか云うものを女子の近くで爆発させて面白がっていますが、ああいう悪趣味は止めて下さい(1月11日・女子)」「いくら自由主義の世の中とはいえ、先生に対して尊敬していただきたい。特に女の先生の時やハナ先生の時業(ママ)の時にはやかましくて...(12月9日・女子)」「共学になると女子が頑張ってくれて美しい学校になるとばかり思っていたが、意外、返って汚くなった。」等々、当時の教室の様子がよくわかる。新しい試みであったホームルームをめぐる記述も多い。



1947年 (昭和22)	4月 学制改革により新制中学校発足
1948年 (昭和23)	4月 学制改革により新制高等学校発足 4月8日堺中新聞「男女共学を聞く」(新聞部と府立堺高女の3人と座談会)「本校：男女共学の時期ですが未だ早すぎるのではないのでしょうか。／高女の吉田さん：今しなければ何時すればよいのでしょうか。今しなければ何時までたっても新しい時代が生まれてくる事が無いでせう。 8月 新制高等学校の名前が三国丘高等学校と決まる 9月 男女共学実施 ※この年、女子制服制定 11月30日堺高新聞「第六回新聞部輿論調査」 1 現在の授業に満足しているか否か 満足3%、不満足97% (教師の教え方が下手で、また早く進歩を進めてほしい、女学校の先生はわからない) 2 共学により風紀が悪くなったか否か 悪くなった98% (教室の移動によって。風紀が悪い。女学校の先生が来たために操行の点面白くない)
1949年 (昭和24)	1月18日堺高新聞で教諭5人と男子生徒3人の座談会「共学三ヶ月を顧みて」 「(堺中生の印象について)少し荒々しいように思う」(櫻井郁子教諭)「男子が女子に親切にしているのが当然だとわかっていても第三者が変な目で見るのでかえって反対の結果に動くのちやないかと思う」(澤田照夫教諭)。 学力差については「差はあまりない」(村上)や「私の学科(英語)等余りやっていた関係上出来る者でも男子の二割、男子と女子は比較出来ないね」(森田義夫教諭)等。 3月3日 新制高校第1回卒業式(=高1回。男子108名、女子14名、計122名) 4月20日 校章決まる(4月20日堺高新聞「新しき三国ヶ丘のシンボル／新校章遂に決定」と発表)。 5月25日堺高新聞「二女性も交え 飯田内閣ここに成立 予想を裏切った顔ぶれ」(庶務部長、文化部長に女子) 9月1日堺高新聞(祝共学1周年)過去になかった伸びやかさ明るさが共学によって生まれてきたことは否定出来ない事実であり共学はこの点において大いに役立ったと考えられている。(澤田照夫・「共学二年目に際して」から)。 9月26日 三国丘高校校歌が生徒に披露される
1950年 (昭和25)	10月20日 三国丘高新聞第1号発行 ※この年、生徒手帳制定
1951年 (昭和26)	4月10日 定時制課程併設
1957年 (昭和32)	4月20日 同窓会誌「三丘会報」第1号発行

座談会 あの頃のことを語ろう

【参加者】
(五十音順)
高3回 大西林子、平圭郎、田中登志子
高4回 糸山松美、野村憲司、三木興一、吉川清子
広報委員会 藤田正身、丸山登志子、山下邦子

昭和23年、共学になるということで生徒が泉陽と三国丘に振り分けられたわけですが、どういう基準で。

吉川 地域ですね。私は市立女学校だったんですが、英彰小学校のときに寺地町の家が焼けて三国ヶ丘にあった市営住宅に移ったので三国丘高校に。英彰小学校の友だちは泉陽高校になりました。

三木 地域で分けた(注1)と言っても必ずしもそうでもなく、多少、忖度もあった。(笑)

野村 堺中は全然、公平じゃなかった。わしは宿院に住んでたんやけど、近所のもんはみんな泉陽へ。わしだけ残った。

平 一部の先生が中心になって振り分けしてたようです。僕はバレー部だったんですけど、まだそんなに実績がなかったんで、残してくれるかなと思ってましたけど。発表の当日、ずらっと名前を書いた紙が張り出されるわけですが、それを見たら泉陽に行くようになってた。ところが非常に仲のいい友だち同士で、一人は泉陽に行かされる一人は残る、そういう連中がいてね、一生懸命交渉してる。私も残してほしいと言って、それはだめだったんですけど、すると二人のうち一人が「平くん、替ったるわ」と。(感嘆の声あり)その人がいなかったら私も泉陽に行ってたんです。

行つた男のやつに聞いたで(爆笑)
田中 私ら女学校で共学になる前、朝7時頃から数学の補習みたいなことをやってもらったわ。先生たちは堺中のほうが進んでると思ってたから、ちょっと勉強しようかということ。それしたら来てみたら私らのほうが進んでたわ。
吉川 女学校やったら、お裁縫とかもあつたもんね。
田中 とにかく早く行きましたわ。女の子、負けたらあかんということ。
平 共学で一緒になって女の人多かつたんですけど1年終ったら女の人、たくさんやめはつたような気がします。
吉川 併設中学校(注6) 3年生でやめる人いたからねえ。
田中 私の学年(高21回)だと男子のほうが多いんですけど、交流が実施されたときの男女比は?
田中 女子が多かった。
野村 2校から来てますもんね。
野村 半々くらいと違うかな。(注7)。
大西 あつたな。
田中 校歌を作詞した吉武さんは同期の山上さんと結婚しはつた。他にも何組かカップルがいましたよ。

昔の写真を見ると、女生徒はセーラー服着てるんですね。
吉川 最初はセーラー服やったね。
田中 女学校の制服をそのまま着てたんです。物のない時代やったから、何を



三木 堺中っていうのは小学校の頃からあがれてた。歴史の古い学校やから、親戚やなんかから聞いているし。そこから、とにかく堺中に入りたいたいという一心で入ってきたのに途中で、「なんで」という感じ。「三国丘高校」になるのもいややつた。「堺高校」でいってほしかった。

平 それと泉陽は校舎が焼けてしまっていた(注2)けど、こっちは鉄筋で残っていた。環境が全く違ったね。だから堺中から泉陽へ行きたくないわけです。
糸山 上野芝から満員電車で押し込まれながら、仮校舎の大阪アルミの寮まで通いました。
野村 女性の方は、三国丘高校に行くのはいやじゃなかったですか?
田中 いやも何も、政府が決めたことだから。三校が一緒になるということで保護者会と先生方で話し合つて区域で決められたから。区域だけでなく、成績も、「万遍なく」なるようにと考慮されて。
糸山 万遍なくははつた上で、泉陽の近くの人でも三国に行きたいということ。こっちは来はつた人も



着てもいいということ。スーツでも。吉川 男の人も小倉の服着て下駄はいてたり。
野村 最初の1年半くらいは(黒い学生帽ではなく)戦闘帽かぶつてた。それに堺中の紋章つけて。
田中 学校の中にいつとき三国丘中学校が同居していたそうすね(注8)。
三木 全部じゃなくて一部やね。今の正門あたりに5教室ほどあつたね。
平 三国丘中学は三国丘高校のマークをまねて、5枚で満開になるのに3枚にして、いまだに使ってますね(笑)。
田中 共学になってよかつたと思つた、ほんま。父親がいなかったから卒業後は就職しましたけど、勤めたら男の人と同じように仕事しようという気があつたから。
野村 わしらの学年、勉強は女の子のほうがえらかったんやもん。一番で卒業したのは女の子やつた。
田中 数学の桜井先生(注9)に、この間、会つてきたんですよ。もう90歳超えてるけど、そのころのことよう覚えてはつ

あります。

田中 共学になった当時は担任が選ばんで(注3)。
野村 授業も大学みたいに時間割、自分で組むんや。担任の先生もな。授業ごとにメンバーが変わる。
吉川 1時間ごとの移動で廊下もザワとすごかつた。カバン持つて。
大西 おかげでほとんどのひとと交流できたわ。
吉川 土曜日曜が休みやつたから(注4)、洋画の3本立て、よく見たわ。
田中 そうそう、市役所の向かいに電気館っていうのがあつて。試験終わった先生に学生割引のチケットもらつて、行つたわ。

田中 私ら女学校から来ていちばん嫌やつた、とかいひつくりしたのはトイレ(注5)。西門入つてこっちのところに。大西 あつたあつた。ベニヤ板で貼つたような。
田中 女子トイレの数が足りないのので早急に作りはつたんやけど、窓ガラスも入つてない、外から見えてる(笑)、電気もない。穴切つてあるだけ。先生用のトイレに、そつと入つたこともあつた。(笑)
三木 おんなじような話、逆に泉陽へ



注1 地域で分けた
堺中の生徒は居住地によって阪堺線大小路を境に、西は泉陽、東は三国丘と分けられたが、実際にはさまざまなケースがあつたようだ。府立堺高女や市立堺高女では本人の希望を優先し、通学距離を基準とした。

注2 泉陽の校舎
昭和20年7月の空襲で府立堺高女の校舎は全焼、この年12月から大阪アルミ会社の青年学校を仮校舎として授業を行っていた(23年5月)。その後元の校地(現在地)へ復帰し、同時に隣地(宅地・墓地)を買収して拡張した。

注3 4 選択科目制・週五日制
新制高校発足時に選択科目制と共にホームルーム・タイムが導入され、授業は科目ごとにばらばらに移動するがホームルームの時間は自分の選んだ担任のもとで過ごした。クラス名ではなく「○○ホーム」と先生の名前と呼び、縦割りのホームが編成されたこともあつた。昭和31年にコース制が導入されるとホームルーム単位での授業となり、教室移動もなくなった。週五日制は母校では昭和23年9月〜昭和31年3月まで実施。

注5 女子トイレの不足
交流で母校に転入した女生徒の数は約750人と思われる。女子トイレの増築が急務であつたので、本館西端の西門そばに波板葺きの簡素な女子トイレがこの年10月に完成した。

注6 併設中学校
昭和22年に新制中学校が発足して旧制中学は新入生募集を停止、すでに入学していた3年生・2年生をそのまま新制中学の3年生・2年生とみなすこととなった。旧制中学に併設された中学という意味で併設中学校と呼ぶ。

注7 男女の比率
高3回、高4回ではむしろ女子のほうが多かつた。(前ページ参照)

注8 三国丘中学校が同居
堺市立三国丘中学校(当初は堺市立第三中学校)は1947年4月1日に創立したが、母校内に仮校舎を設置。翌年現在地に移転してからも、母校内に分校を設置して一部の生徒を収容した。

注9 桜井先生
府立堺高女から転任してきた桜井郁子教諭(数学)。1年4組の担任だった。

注10 網先生
網丑治教諭(数学)。堺中から引き続き新制高校でも教えた。併設中学3年1組の担任だった。

旧制中学～新制高校 移行図

